

長野市のスポーツ施設の現況と課題



前回の「やまびこ国体」で建設された長野運動公園総合運動場
総合体育館（昭和53(1978)年 竣工）



サッカー・ラグビーの競技人口増加に伴い、多くの市民に利用
されている千曲川リバーフロントスポーツガーデン
（平成2(1990)年 開設）



令和3年度をもって廃止された城山市民プール
（昭和46(1971)年 竣工）

令和3年10月27日(水)

長野市文化スポーツ振興部スポーツ課 国民スポーツ大会準備室

本市のスポーツ振興に対する取り組み

本市は、これまで、スポーツの果たす役割や意義を重要なものと捉え、スポーツの振興に努めてきました。長野県をあげての一大行事であった昭和51(1976)年の全国高等学校総合体育大会、昭和53(1978)年の国民体育大会(やまびこ国体)を控え、昭和50(1975)年6月15日に“スポーツ都市宣言”を行い、体育施設の整備・充実、体育指導委員(現スポーツ推進委員)の増員、地域のスポーツ振興、各種スポーツ教室の増設など具体的な施策を掲げ、明るく豊かな長野市を築くべく、その施策を推進してきました。

◆ スポーツ都市宣言 ◆

健康な心、健康なからだ、これは古代より人間の求めてやまない願いである。私たち長野市民は、スポーツを愛し、スポーツを通じて健康な心とからだをつくり豊かで明るい長野市を築くため、ここにスポーツ都市の宣言をする。

- 1 スポーツを通じてたくましい心とからだをつくろう。
- 1 スポーツ活動を通じて多くの友達をつくり、友情の輪を広げよう。
- 1 スポーツを愛し、広く世界の人々と手をつなごう。



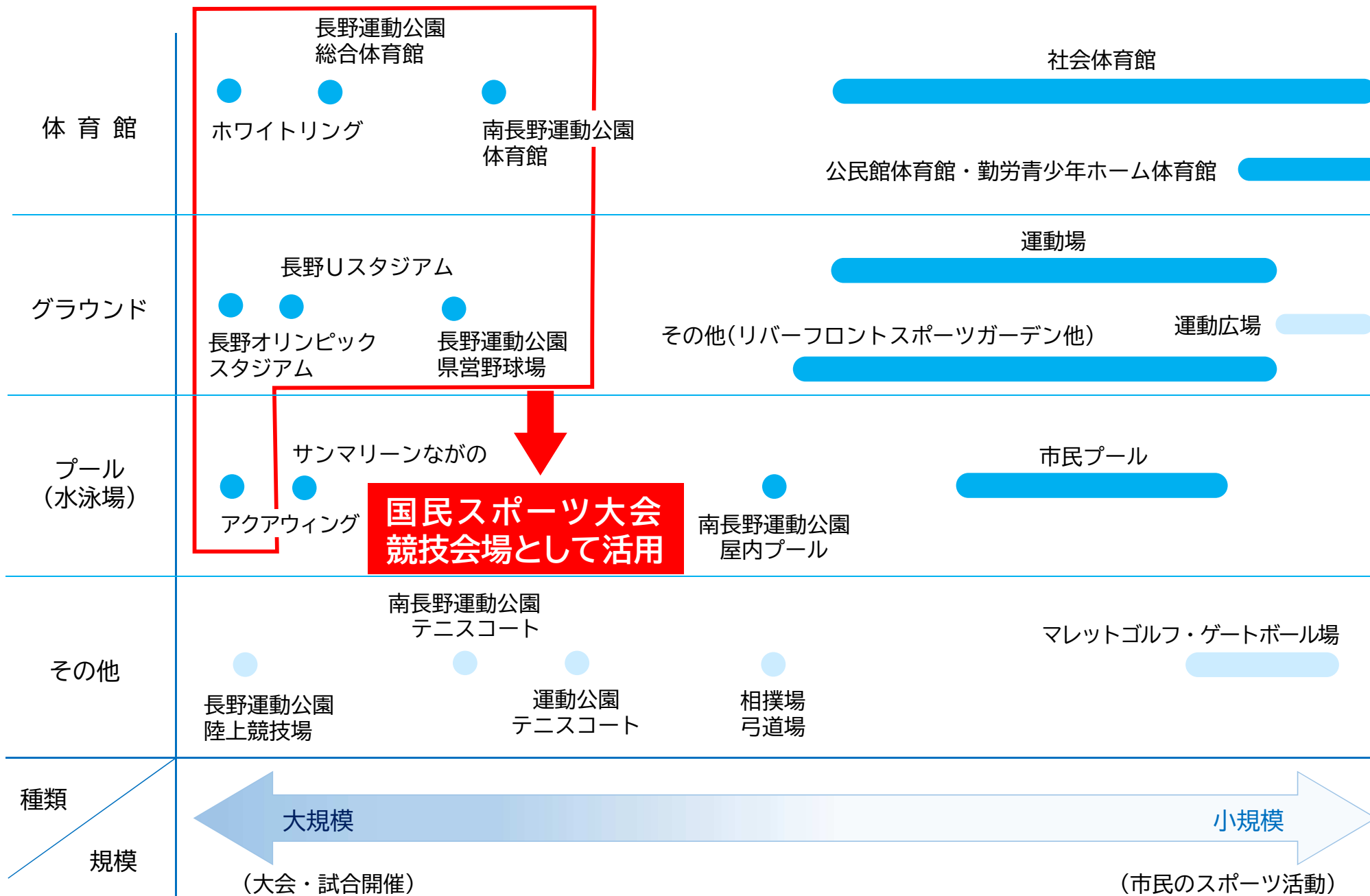
長野オリンピックの開催を記念して始まり、本市の春の風物詩となった長野マラソン大会。毎年1万人のランナーが参加し、全国的にも高い評価を得ている

平成10(1998)年2月には長野オリンピック冬季競技大会、同年3月には長野パラリンピック冬季競技大会が開催され、その後、これを機に整備されたスポーツ施設やボランティア精神の高揚など、有形無形の財産を基に、オリンピックムーブメント※の推進とともに、スポーツの振興を図ってきました。

※ オリンピックムーブメント…いかなる差別もなく、友好、連帯、フェア・プレーの精神をもって、相互理解を推進するという「オリンピック精神」に基づき、スポーツを通して青少年を育成することによって平和でよりよい世界を建設し、国際親善に貢献しようとする事。

また、平成19(2007)年4月に策定した“第四次長野市総合計画”において、“スポーツを軸としたまちづくりの推進”を基本施策に掲げ、平成20(2008)年9月には総合計画の個別計画として、長野市スポーツ振興計画を策定しました。平成21(2009)年9月には「文化芸術及びスポーツの振興による文化力あふれるまちづくり条例」を制定し、市民と行政が連携、協働し、文化芸術及びスポーツの持つ「文化力」あふれるまちづくりの推進を目指しています。

本市のスポーツ施設





現況と課題① — 体育館関係

概要

区分	種類	施設数/フロア数	主な利用	国スポでの活用
大規模施設	長野運動公園 総合体育館 ホワイトリング 南長野運動公園 体育館	3施設/5フロア	各種大会・試合の開催	競技会場として活用
小規模施設 (大規模施設以外)	社会体育館 等	32施設/32フロア	市民のスポーツ活動 地域の大会・イベント	一部練習会場として活用
	公民館体育館	6施設/6フロア		活用の予定なし
	勤労者青少年ホーム体育館	3施設/3フロア	※一部の社会体育館は 各種大会も開催	活用の予定なし
合計		44施設/46フロア		

- 大規模施設は、フロア面積が広く、観客席や駐車場などがあることから、市内全域や県内・北信越・全国から参加者が集まる大会・試合が開催されています。交流人口拡大推進の観点から、北信越以上の大会については大規模施設の優先予約ができるようにしています。
- 大規模施設以外の体育館は、市民のスポーツ活動や地域の大会・イベント等での利用が主なものとなっていますが、一部のフロア面積が広く駐車場等の条件が整った社会体育館では、大規模施設を予約できなかった大会等も開催されています。
- 上記の体育館関係施設に加え、小・中学校の体育館も学校行事のない時(主に夜間・休日)には市民のスポーツ活動に利用されています。
- 国民スポーツ大会の開催にあたっては、競技ごとに競技会場の要件が定められているため、大規模施設以外での開催はできません。ただし、一部の条件の整った社会体育館は、練習会場としての活用が想定されます。

体育館関係の現況と課題

種 類	現 況	課 題
<p>大規模施設</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・北信越以上の大会は優先して利用予約を受付 ・県大会以下の大会は、年に一回競技団体等の利用調整会議を行っているが、利用希望が非常に多い ・特に空調設備等の整ったホワイトリングには利用希望が集中する ・ホワイトリングではB1リーグとF1リーグの試合が開催されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・やまびこ国体や長野オリンピック開催の際に整備された施設であるため、設備や施設そのものが老朽化・旧式化している ・ホワイトリングへの利用希望が集中し、その後他の大規模体育館の予約へ流れる傾向がある ・B1リーグ、F1リーグの開催要件に適合する設備等を有する体育館がホワイトリング以外にない
<p>小規模施設 (社会体育館等)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の体育館は、概ね高い稼働率(84.5%)を維持※ →特に夜間と土日・祝日 ・山間地の体育館は、平日昼間は空きコマが多い(稼働率33.2%)※ →土日・祝日は市街地の体育館を予約できなかった利用者が予約する傾向 ・市民利用は無料(ほとんどが無人施設) ・避難所や投票所に指定されている施設がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の体育館は、利用者が多くなかなか予約がとれない(特に夜間と土日・祝日) ・社会体育館はほとんどが無人施設であり、維持費はあまりかかっていないが、施設を廃止する場合には高額な解体費がかかる ・利用料を徴収する場合、徴収に要する費用がかかりかえって現在よりコストアップしてしまう

※時間ごとの稼働率。稼働日はほぼ100%になる。

現況と課題② — グラウンド関係（ゲートボール場、テニスコート等除く）



概要

区分	種類		施設数	面数			形態	国スポでの活用
				野球場※1	フットボール場	多目的		
大規模施設	長野運動公園 県営野球場		1	1			内野:クレー 外野:天然芝	競技会場として活用
	長野オリンピックスタジアム		1	1			人工芝	競技会場として活用
	長野Uスタジアム		1		1		天然芝	競技会場として活用
大規模施設以外	運動場	堤内	16	16		2	クレー	活用の予定なし
		堤外(河川敷)	10	38	4		クレー	活用の予定なし
	その他	堤内	6		4※2	2	クレー:5 天然芝:1※2	活用の予定なし
		堤外(河川敷)	1		5		天然芝	活用の予定なし
合計			36	56	14	4		

※1：少年野球場、ソフトボール場を含む ※2：すべて飯綱高原に位置し夏季の合宿誘致に活用

- 競技別の面数割合は、野球場が約76%、フットボール場が約19%、多目的運動場が約5%となっています。
- 夜間照明のあるグラウンド面数の割合は約12%で、形態の内訳はクレー8面、天然芝1面(長野Uスタジアム)となっています。
- 大規模施設以外の河川敷グラウンドの占める面数割合は約66%となっており、3分の2のグラウンドが河川敷にある状態です。

グラウンド関係の現況と課題

種類	現況	課題												
<p>大規模施設</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・土日・祝日を中心に、小学生年代からプロまで幅広い層の試合や大会が開催されている ・野球場は平日夜間に練習で使われることも多い ・長野Uスタジアムは芝生の保護・養生のため利用に一定の制限を設けて運用している ・“観戦”という形での市民利用が非常に多い施設になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場2施設については、設備や施設そのものが老朽化・旧式化している ・特に県営野球場は昭和41(1966)年竣工で、その後大規模な施設改修は行われていないため、老朽化が著しい ・長野Uスタジアムは他に設備の整ったフットボール場がないため、非常に利用希望が多くなっている ・長野Uスタジアムはサブピッチがないため、大規模大会等の誘致が困難 												
<p>大規模施設以外 (運動場 等)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・土日・祝日の利用が中心であり、平日(特に昼間)の利用は少ない ・河川敷の施設が多いが、近年の気候変動に伴い、頻繁に冠水するようになっている ・野球場※の形態のグラウンドが非常に多い ※マウンド、簡易バックネット、ファウルポール ・夜間照明を備える施設が少なく、特にフットボール場はひとつもない 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害の頻繁化のため、河川敷の運動場について以下の運動場を廃止 <ul style="list-style-type: none"> ■ 塩崎運動場 (2面) 令和2年度廃止 ■ 万年島運動場 (1面) 令和2年度廃止 ■ 更北運動場 (1面) 令和3年度廃止 年間約150万円、災害復旧費約7,800万円の削減効果 ・競技人口とグラウンド形態の割合が乖離している <table border="1" data-bbox="1377 1284 2049 1444"> <tr> <td>〈長野市の競技人口※〉</td> <td>野 球</td> <td>: 1,705人</td> </tr> <tr> <td>※団体登録者数</td> <td>サッカー</td> <td>: 3,410人</td> </tr> <tr> <td>〈グラウンドの種類〉</td> <td>野球場</td> <td>: 76%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>フットボール場</td> <td>: 19%</td> </tr> </table> ・市街地の堤内地に芝生グラウンドがひとつもない 	〈長野市の競技人口※〉	野 球	: 1,705人	※団体登録者数	サッカー	: 3,410人	〈グラウンドの種類〉	野球場	: 76%		フットボール場	: 19%
〈長野市の競技人口※〉	野 球	: 1,705人												
※団体登録者数	サッカー	: 3,410人												
〈グラウンドの種類〉	野球場	: 76%												
	フットボール場	: 19%												



現況と課題③ — プール(水泳場)関係

概要

区分	種類	プールの種類	主な利用	国スポでの活用
屋内プール	長野運動公園 総合市民プール (アクアウィング)	50m・25m 他	各種大会の開催、スポーツ活動	競技会場として活用
	南長野運動公園 屋内プール	25m	スポーツ活動	練習会場の可能性あり
	健康レクリエーションセンター (サンマリーンながの)	流水プール・25m 他	レジャー、スポーツ活動	活用の予定なし
屋外プール	犀南市民プール	50m・幼児用	レジャー、スポーツ活動	練習会場の可能性あり
	北部市民プール	50m・幼児用	レジャー、スポーツ活動	練習会場の可能性あり
	安茂里市民プール	50m・幼児用	レジャー、スポーツ活動	練習会場の可能性あり
	青垣市民プール	25m変形・幼児用	レジャー	活用の予定なし

- 屋内プールはいずれも通年型の施設です。
- 屋外プールの稼働は7月から8月までの2カ月弱となっています。
- 平成30(2018)年から施設のあり方の見直しが行われ、屋外プールについて公共施設個別施設計画に基づく統廃合が行われました。

プール(水泳場)関係の現況と課題

種 類	現 況	課題、対応等
<p>屋内プール</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年の利用ができ、市民のスポーツ活動(健康増進)に活用されており、利用者数も増加傾向である ・ 競技に使用できるのはアクアウィングのみだが、県内唯一の本格的な屋内水泳施設として全日本クラスを含めた競技大会が開催されている ・ サンマリーンながのはレジャーと健康増進に特化した施設のため、競技関係での利用は不可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクアウィングと南長野運動公園屋内プールは長野オリンピック開催を機に整備された施設であるため、設備や施設そのものが老朽化・旧式化している ・ サンマリーンながのの利用者は増加傾向にあるが、より一層の利用促進を図る必要がある 〈サンマリーンながの利用状況〉 令和元年度 193,485人 平成30年度 180,752人
<p>屋外プール</p> 	<p>利用者の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ➔ 余暇の過ごし方多様化、夏季の“酷暑化”等により利用者が減少 <p>高い維持管理費</p> <ul style="list-style-type: none"> ➔ 水質の維持管理等が必要。また、安全管理上から無人化はできない(プール監視員) <p>短い稼働期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ➔ 夏季の限られた期間のみの稼働のため、利用料金の値上げで維持管理費を相殺することは不可能 	<p>市民プールの廃止(統廃合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鬼無里B&G市民プール ➔ 令和2年度をもって廃止 ・ 信州新町市民プール ➔ 令和2年度をもって廃止 ・ 芹田市民プール ➔ 令和2年度をもって廃止 ・ 茶臼山市民プール ➔ 令和2年度をもって廃止 ・ 城山市民プール ➔ 令和3年度をもって廃止 <p>★ 公共施設個別施設計画に基づく統廃合</p> <p>年間約3,400万円、10年間では設備等の改修費用を含め約14億円の削減効果</p>